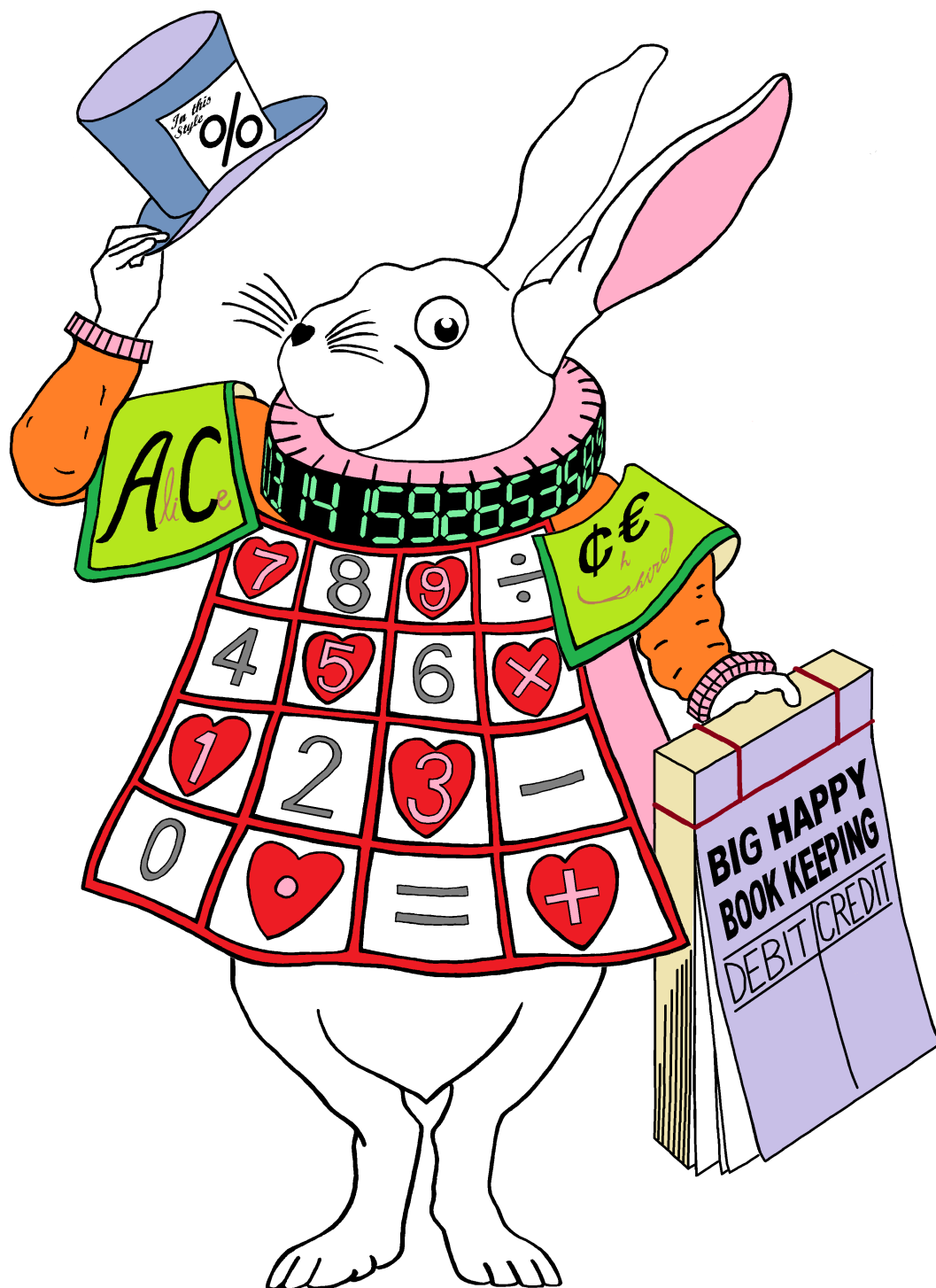


全經簿記3級



目 次

簿記入門	1
商品売買の記帳	1 5
消費税の処理	1 6
商品売買と原価の処理	1 6
現金勘定の処理	1 6
商品売買と小切手	1 8
有価証券の売買	1 8
有形固定資産の売買	1 8
様々な債権・債務	1 9
様々な費用・収益	2 0
株式の発行（設立時・増資時）	2 0
帳簿	2 1
決算手続きの概要	2 9
商品に関する決算整理	3 1
貸倒引当金	3 1
減価償却費と固定資産台帳	3 2
費用の繰延と見越（前払費用と未払費用）	3 3
貯蔵品への振替	3 4
現金過不足の決算処理	3 4
決算振替と総勘定元帳の締切	3 5
財務諸表作成	3 9

◆簿記入門

1 簿記とは

帳簿記入

＜簿記とは＞

企業の活動を一定のルールに従って帳簿に記入し、記録・計算・整理する技術

目的

日々の取引を正確に記録し、決算書（財務諸表）を作成する

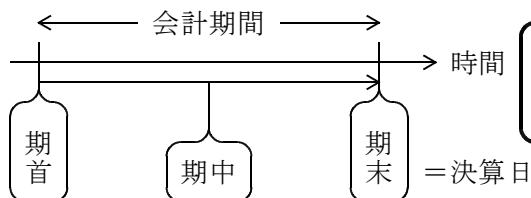


企業を取り巻く
様々な利害関係者に
企業情報を公開し、
円滑なコミュニケーションを図る

財務諸表

損益計算書…経営成績
貸借対照表…財政状態
キャッシュフロー計算書
株主資本変動計算書
(製造原価報告書)

2 会計期間と決算



＜会計期間とは＞

損益計算を行なうための時間的な区切り
として設けられた財務諸表の作成対象期間

3 簿記の基本的思考法

簿記では、経営活動（取引）を**資産、負債、資本、収益、費用**の5つに分けて記録する。

簿記では、経営活動（取引）を二面から理解し、帳簿の左側と右側に記述する。

借方

貸方

4 貸借対照表と損益計算書

貸借対照表

一定時点の財政状態を明らかにする書類

結果

通常は

期末決算日

借方：資産
貸方：負債、資本

活動

損益計算書

一定期間の経営成績を明らかにする書類

通常は

会計期間

借方：費用
貸方：収益

貸借対照表

資産	負債
	資本

損益計算書

費用	収益
----	----

左側（借方）と右側（貸方）のどちらに書くかは、
貸借対照表、損益計算書のどこにあるかで決まる。

5 決算書とそれら相互の関係

損 益 計 算 書

Profit & Loss Statement (P/L)

損益計算書とは：一定期間の経営成績を明らかにする書類
(=「もうけ」とその詳細)

$$\text{収益} - \text{費用} = \text{当期純利益}$$

範例 1

御堂筋商事株式会社の、ある 1 年間の営業状態は次のとおりであった。
このときの当期純利益を算出なさい。

営業による収益	
手数料の受取	合計 ¥ 8,000,000
それに要した費用	
給料の支払	合計 ¥ 5,000,000

$$\begin{array}{lcl} <\text{収 益}> & <\text{費 用}> & <\text{当期純利益}> \\ \text{受取手数料 } \text{¥ } 8,000,000 & - & \text{給料 } \text{¥ } 5,000,000 & = & \text{¥ } 3,000,000 \end{array}$$

問題 1

上記の範例に基づき、御堂筋商事株式会社の損益計算書を作成なさい。

損 益 計 算 書			
御堂筋商事株式会社		自 × 1 年 4 月 1 日 至 × 2 年 3 月 31 日	(単位：円)
費 用 の 部	金 額	収 益 の 部	金 額
給 料		受 取 手 数 料	
当期純利益			

(解答) 問題 3 を参照のこと。

貸借対照表

Balance Sheet (B/S)

貸借対照表とは：一定時点の財政状態を明らかにする書類
(=財産と借金の状態)

$$\text{資産} = \text{負債} + \text{資本（純資産）}$$

範例 2

御堂筋商事株式会社は、浪速花子が会社を退職して、起業したものである。
次の場合の資金の調達源泉と資金の運用状態を明らかにしなさい。

×1年4月1日 浪速花子は、現金¥10,000,000を出資して事業を開始した。

<運用状態>

資産	御堂筋商事株式会社は 現金 ¥10,000,000 を所有している。
----	--

<調達源泉>

自分の正味の財産分 資本金 ¥10,000,000	資本
------------------------------	----

×2年3月31日 決算日までの1年間の営業の結果、手持ちの現金は¥18,000,000、
そのうち借入金が¥5,000,000、あった。

<運用状態>

資産	御堂筋商事株式会社は 現金 ¥18,000,000 を所有している
----	---

<調達源泉>

他人に対する支払義務 借入金 ¥5,000,000	負債
自分の正味の財産分 資本金 ¥10,000,000 繰越利益剰余金 ¥3,000,000	資本

問題 2

上記の範例に基づき、3月31日現在の御堂筋商事株式会社の貸借対照表を作成しなさい。

御堂筋商事株式会社		貸借対照表 ×2年3月31日現在		(単位：円)
資産の部	金額	負債・資本の部	金額	
現金		借入金		
		資本金		
		繰越利益剰余金		

(解答) 問題3を参照のこと。

貸借対照表と損益計算書の関係

問題 3

次の取引ごとに、貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。

4月1日 御堂筋商事株式会社は、現金¥10,000の出資により設立された。

貸借対照表 ×1年4月1日 (単位:円)				損益計算書 自×1年4月1日至×1年4月1日 (単位:円)			
資産の部	金額	負債・資本の部	金額	費用の部	金額	収益の部	金額
現金		資本金					

7月10日 現金¥5,000を借り入れた。

貸借対照表 ×1年7月10日 (単位:円)				損益計算書 自×1年4月1日至×1年7月10日 (単位:円)			
資産の部	金額	負債・資本の部	金額	費用の部	金額	収益の部	金額
現金		借入金					
		資本金					

10月20日 手数料¥8,000を現金で受け取った。

貸借対照表 ×1年10月20日 (単位:円)				損益計算書 自×1年4月1日至×1年10月20日 (単位:円)			
資産の部	金額	負債・資本の部	金額	費用の部	金額	収益の部	金額
現金		借入金				受取手数料	
		資本金					
		繰越利益剰余金					

1月25日 給料¥5,000を現金で支払った。

貸借対照表 ×2年1月25日 (単位:円)				損益計算書 自×1年4月1日至×2年1月25日 (単位:円)			
資産の部	金額	負債・資本の部	金額	費用の部	金額	収益の部	金額
現金		借入金		給料		受取手数料	
		資本金					
		繰越利益剰余金					

3月31日 今期終了につき、利益を確定し、損益計算書・貸借対照表を作成した。

貸借対照表 ×2年3月31日 (単位:円)				損益計算書 自×1年4月1日至×2年3月31日 (単位:円)			
資産の部	金額	負債・資本の部	金額	費用の部	金額	収益の部	金額
現金		借入金		給料		受取手数料	
		資本金		当期純利益			
		繰越利益剰余金					

貸借対照表と損益計算書の関係

$$\text{資本} = \text{資産} - \text{負債}$$

$$\text{利益} = \text{収益} - \text{費用}$$

問題 3 解答（略式表記）

4 月 1 日 御堂筋商事株式会社は、現金 ¥ 10,000 の出資により設立された。

B / S		P / L	
現金	10,000	資本金	10,000

7 月 10 日 現金 ¥ 5,000 を借り入れた。

B / S		P / L	
現金	15,000	借入金	5,000
		資本金	10,000

10 月 20 日 手数料 ¥ 8,000 を現金で受け取った。

B / S		P / L	
現金	23,000	借入金	5,000
		資本金	10,000
		繰越利益剰余金	8,000

1 月 25 日 給料 ¥ 5,000 を現金で支払った。

B / S		P / L	
現金	18,000	給料	5,000
		受取手数料	8,000
		資本金	10,000
		繰越利益剰余金	3,000

費用 = 資本を減少させる原因

収益 = 資本を増加させる原因

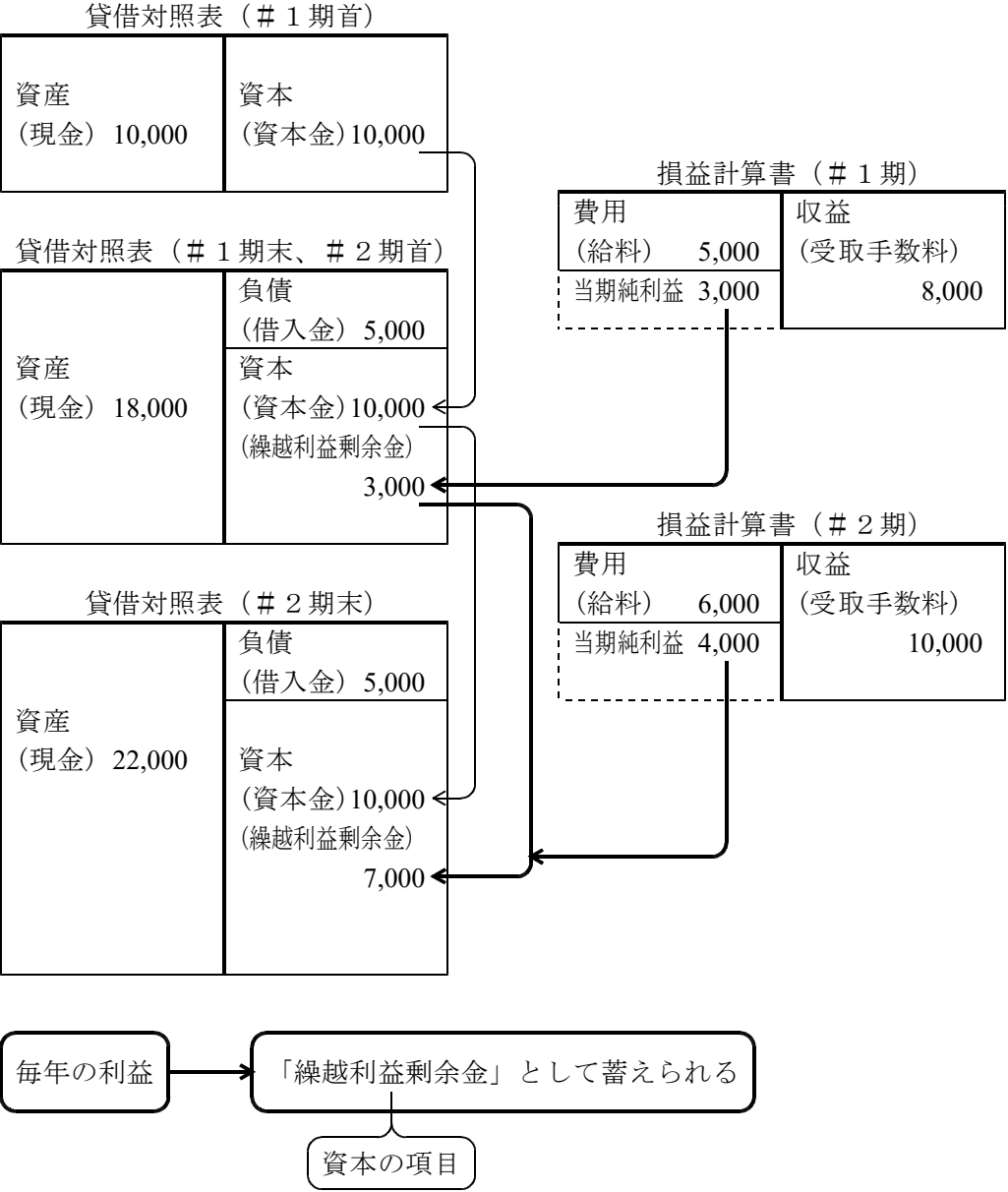
3 月 31 日 今期終了につき、利益を確定し、損益計算書・貸借対照表を作成した。

貸 借 対 照 表		損 益 計 算 書	
現金	18,000	給料	5,000
		受取手数料	8,000
		当期純利益	3,000
			8,000
18,000	18,000		

資本の増加分 = 利益

貸借対照表と損益計算書の関係

●資本の変化と利益

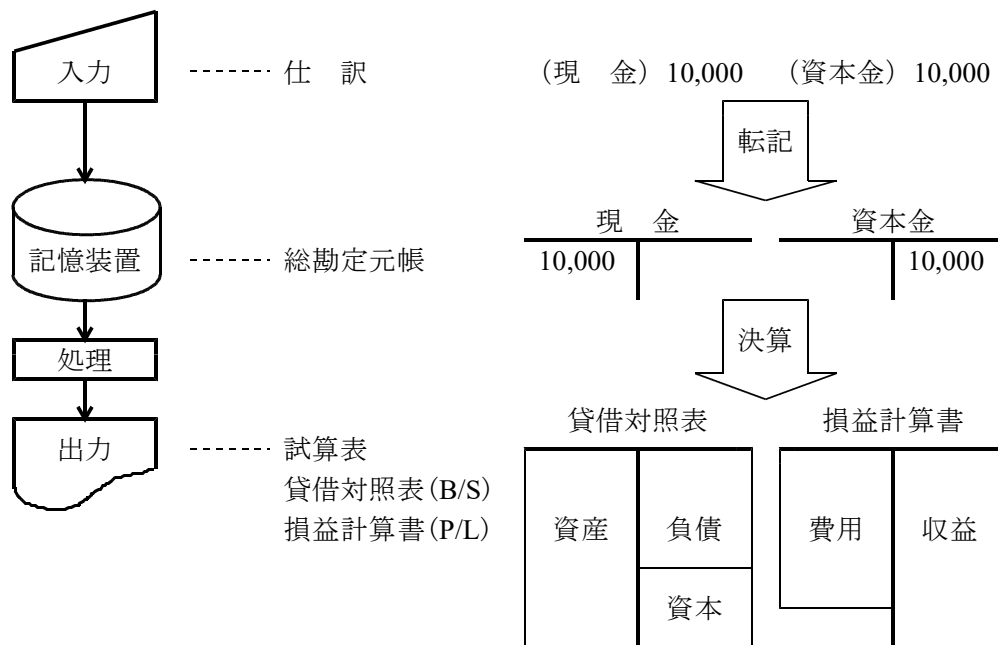


6 簿記一連の手続き

実際には、取引の都度、貸借対照表や損益計算書をつくることはありません。普段は、簡単な手続きで、記録を蓄積してゆき、決算で、その記録を処理して、決算書と呼ばれる貸借対照表や損益計算書を作成していきます。

それは、まるで、現代のコンピュータの処理の仕組みとそっくりです。

●情報システムと簿記



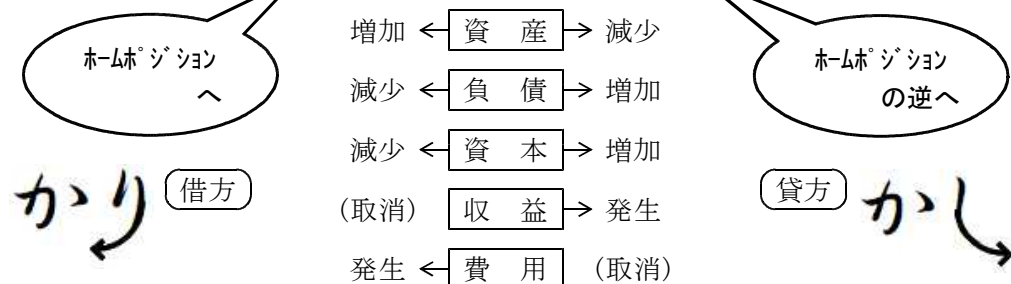
●仕訳の手順とルール … 決算書の作成を目指した最初の一步

<仕訳の手順>

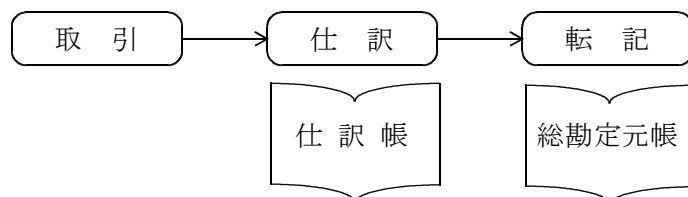
取引を二面から理解し、帳簿の左側と右側に記述します。

左右のどちらの側になるかは、次のことから判断していきます。

- それは、資産、負債、資本、収益、費用のどれにあたるのか？
- それは、貸借対照表や損益計算書でどちらの側に書くのか？
- それは、増えた（または発生した）のか、減ったのか？



●期中の記帳処理の手順と使用する帳簿



簿記一連の手続（期中の記帳）

問題 4

次の取引の仕訳を行い、総勘定元帳に転記しなさい。

4月1日 御堂筋商事株式会社は、現金¥10,000の出資により設立された。

7月10日 現金¥5,000を借り入れた。

10月20日 手数料¥ 8,000 を現金で受け取った。

1月25日 給料¥5,000を現金で支払った。

	仕 訳			
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
4 月 1 日				
7 月10日				
10月20日				
1 月25日				

現金	借入金
	資本金
給料	
	受取手数料

(解答) 仕訳	4月1日	(現金)	10,000	(資本金)	10,000
	7月10日	(現金)	5,000	(借入金)	5,000
	10月20日	(現金)	8,000	(受取手数料)	8,000
	1月25日	(給料)	5,000	(現金)	5,000

総勘定元帳 次ページ参照のこと。

はじめのうちは、日付と金額だけ記入できればよい。

また、転記は1取引ごとに行うことを心がけること。

簿記一連の手続（決算：試算表の作成）

問題 5

次の総勘定元帳をもとに、合計試算表で確認の上、残高試算表を作成しなさい。

現 金		借 入 金	
4/1 資本金 10,000	1/25 給 料 5,000		7/10 現 金 5,000
7/10 借入金 5,000			資 本 金
10/20 受取手数料 8,000			4/1 現 金 10,000
	給 料		受取手数料
1/25 現 金 5,000			10/20 現 金 8,000

合 計 試 算 表 × 2 年 3 月 31 日 (単位:円)			残 高 試 算 表 × 2 年 3 月 31 日 (単位:円)		
借 方	勘定科目	貸 方	借 方	勘定科目	貸 方
	現 金			現 金	
	借 入 金			借 入 金	
	資 本 金			資 本 金	
	受取手数料			受取手数料	
	給 料			給 料	

(参考)

合計残高試算表 × 2 年 3 月 31 日 (単位:円)				
借 方		勘定科目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
18,000	23,000	現 金	5,000	
		借 入 金	5,000	5,000
		資 本 金	10,000	10,000
		受取手数料	8,000	8,000
5,000	5,000	給 料		
23,000	28,000		28,000	23,000

(解答) 上記または残高試算表について次ページ参照のこと

簿記一連の手続（決算：精算表～決算書の作成）

問題 6

次の精算表を完成させ、貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。

精 算 表						
× 2 年 3 月 3 1 日						
(単位：円)						
勘 定 科 目	残高試算表		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	18,000					
借 入 金		5,000				
資 本 金		10,000				
受取手数料		8,000				
給 料	5,000					
当期純()						
	23,000	23,000				

貸 借 対 照 表				損 益 計 算 書			
× 2 年 3 月 3 1 日				自×1年4月1日至×2年3月31日			
(単位:円)				(単位:円)			
資産の部	金 額	負債・資本の部	金 額	費用の部	金 額	収益の部	金 額
現 金		借 入 金		給 料		受取手数料	
		資 本 金		当期純利益			
		繰越利益剰余金					

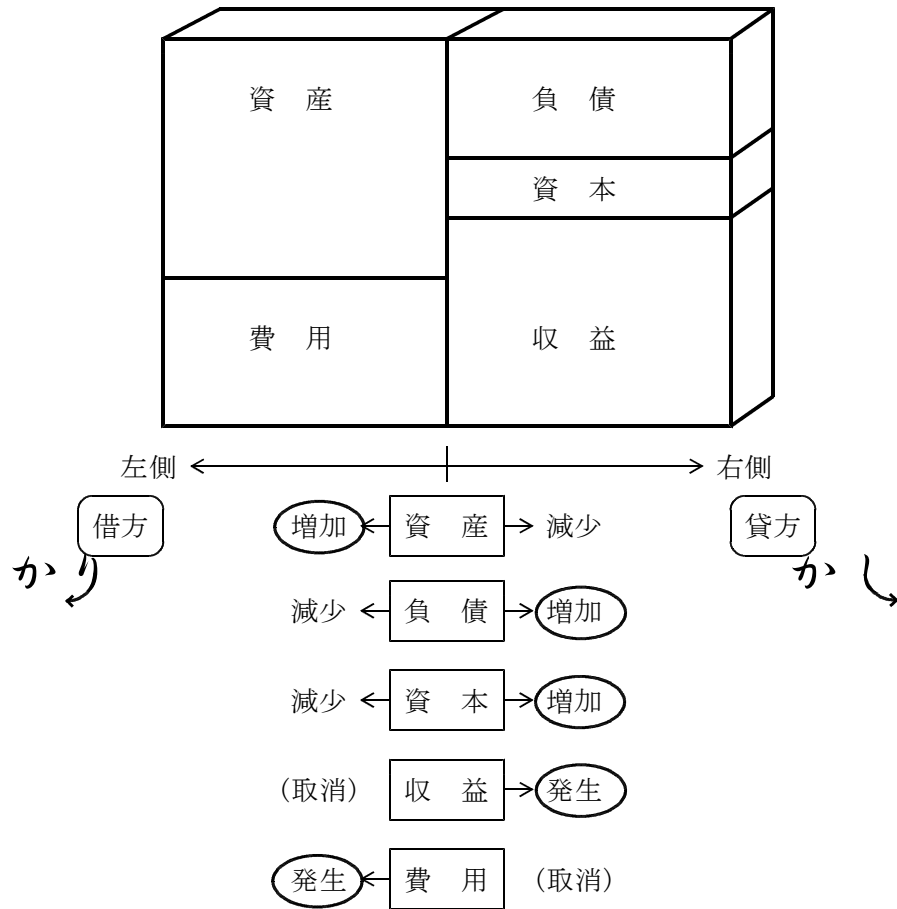
(解答とヒント)

精算表の作成：試算表の数字のうち、貸借対照表項目は貸借対照表に、
損益計算書項目は損益計算書に書き写す。

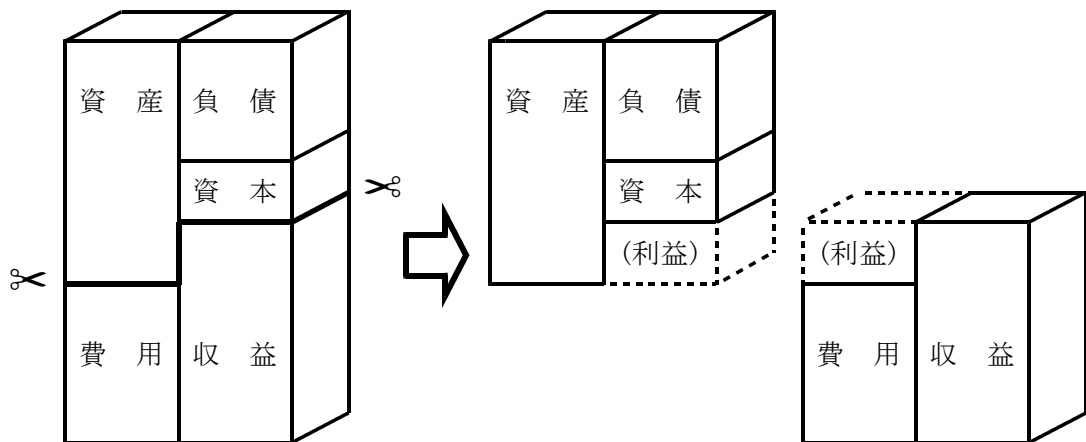
下段の貸借対照表と損益計算書は、問題3を参照のこと。

<簿記理解へのヒント>

●残高試算表の箱と仕訳のルール



●試算表と決算書（B／S、P／L）の関係 … 精算表の仕組み



7 決算書の見方

決算書の表示内容

新聞などに公告される決算書と簿記学習の決算書

損益計算書 ①	
自○年○月○日～至×年×月×日	
売 上 高	②
ー) 売上原価	③
ー) 経 費	④
利 益	⑤

損益計算書は

- ① いつから、いつまでの間に
- ② いくら売って（稼いで）
- ③ その原価はいくらで
- ④ そのためにいくら経費を使って
- ⑤ どのくらい儲けたか
ということを示しています。

その経営活動の結果

貸借対照表 ①		
×年×月×日現在		
資 産 ⑦	負 債 ②	
	資 本 ⑤	資本金③
		剰余金④
合 計 ⑧	合 計 ⑥	

貸借対照表は

- ① いつ現在
- ② これだけの借金をして
- ③ これだけ自分のお金を出資して
- ④ これだけ儲けなどを蓄えて
- ⑤ これだけは、返済する必要のないもので
- ⑥ つまり、これだけの資金源からのお金を
- ⑦ こういうものに使って
- ⑧ これだけの財産として持っている
ということを示しています。



損益計算書 ①	
自○年○月○日～至×年×月×日	
売上原価 ③	売 上 高 ②
経 費 ④	
利 益 ⑤	

簿記学習の初期では、左のような勘定式の損益計算書を用います。

- ① いつから、いつまでの間に
- ② いくら売って（稼いで）
- ③ その原価はいくらで
- ④ そのためにいくら経費を使って
- ⑤ どのくらい儲けたか

この形式は、貸借対照表と同じ形なので、仕訳等のしくみを理解するのに便利です。

(サンプル)

損益計算書と貸借対照表

損 益 計 算 書

御堂筋商事株式会社

自×2年4月1日 至×3年3月31日

(単位：円)

費 用 の 部	金 額	収 益 の 部	金 額
売 上 原 価	1,536,000	売 上 高	2,304,000
給 料	480,000	受取手数料	400,000
水道光熱費	193,000		
雑 費	128,000		
当期純利益	367,000		
	2,704,000		2,704,000

貸 借 対 照 表

御堂筋商事株式会社

×3年3月31日

(単位：円)

資 産 の 部	金 額	負債・資本の部	金 額
現 金	224,000	買 掛 金	240,000
売 掛 金	98,000	借 入 金	480,000
商 品	195,000	資 本 金	300,000
建 物	910,000	繰越利益剰余金	407,000
	1,427,000		1,427,000

全経３級の標準勘定科目・表示科目

資 産	負 債
現金 小口現金 当座預金 普通預金 定期預金 売掛金 未収金 前払金 支払手付金 前払家賃 前払地代 前払保険料 貸付金 従業員貸付金 立替金 従業員立替金 仮払金 仮払消費税 有価証券 商品 繰越商品 消耗品 備品 車両運搬具 建物 土地	買掛金 未払金 未払税金 未払給料 未払広告費 未払家賃 未払地代 前受金 受取手付金 預り金 従業員預り金 所得税預り金 社会保険料預り金 仮受金 仮受消費税借入金
	資 本
	資本金 繰越利益剰余金
費 用	収 益
売上原価 仕入 給料 交際費 広告費 旅費 交通費 発送費 通信費 水道光熱費 消耗品費 修繕費 支払家賃 支払地代 支払手数料 支払利息 保険料 貸倒損失 貸倒引当金繰入 減価償却費 有価証券売却損 雑費 雑損	売上 商品販売益 有価証券売却益 役務収入 ○○収入 受取利息 雑益 雑収入
そ の 他	
損益 現金過不足 貸倒引当金	

◆商品売買の記帳

1 現金取引と掛け(信用)取引

(1) 現金取引と掛取引の比較

商品を売上げ、代金は現金で受取った。
 (現金) × × (売上) × ×
 商品を売上げ、代金は掛けとした。
(売掛金) × × (売上) × ×

商品を仕入れ代金は現金で支払った。
 (仕入) × × (現金) × ×
 商品を仕入れ、代金は掛けとした。
(仕入) × × (買掛金) × ×

(2) 掛→現金で回収

商品を売上げ、代金は掛けとした。
 (売掛金) × × (売上) × ×
 売掛金を回収し、現金を受取った。
 (現金) × × (売掛金) × ×

商品を仕入れ、代金は掛けとした。
 (仕入) × × (買掛金) × ×
 買掛金を現金で支払った。
 (買掛金) × × (現金) × ×

2 返品

該当額分だけ、売上、仕入を取り消す＝逆仕訳

※原則として、掛取引分から取り消していく

商品を売上げ、代金は掛けとした。
 (売掛金) × × × (売上) × × ×
 先に売上げた商品の一部が返品された。
 (売上) × × (売掛金) × ×

商品を仕入れ、代金は掛けとした。
 (仕入) × × × (買掛金) × × ×
 先に仕入れた商品の一部を返品した。
 (買掛金) × × (仕入) × ×

※いわゆる売上戻り

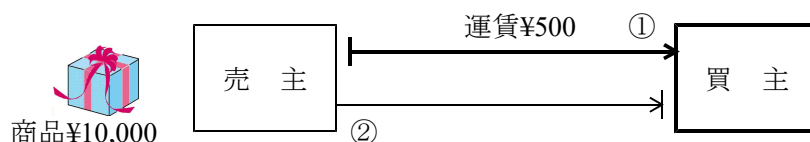
※いわゆる仕入戻し

単に「戻り」と言うこともある。

単に「戻し」と言うこともある。

3 引取運賃、発送費の処理

仕入に係る費用(仕入諸掛り)は、仕入に含める。＝その分、仕入を増額する。



① 運送費(運賃)は買主が負担する …原則

商品¥10,000を売上げ代金は掛けとした。

商品¥10,000を掛りで仕入れ、

その際運送費¥500を現金で支払った。

(売掛金) 10,000 (売上) 10,000

(仕入) **10,500** (買掛金) 10,000

(現金) 500

※仕入に関わる諸経費は、仕入代金に含める。

(仕入諸掛)

② 運送費(運賃)は売主が負担する

商品¥10,000を掛けて売上げた。

商品¥10,000を仕入、代金は掛けとした。

なお、運送費¥500を現金で支払った。

(売掛金) 10,000 (売上) 10,000

(仕入) 10,000 (買掛金) 10,000

(発送費) 500 (現金) 500

◆消費税の処理 … 3級では税抜方式で記帳

商品¥3,300（10%税込価格）を売上げ、
代金は掛けとした。

（売掛金）3,300（売上）3,000
（仮受消費税）300

商品¥2,200（10%税込価格）を仕入れ、
代金は掛けとした。

（仕入）2,000（買掛金）2,200
（仮払消費税）200

-----（決算処理）-----（※全経では2級の範囲）
（仮受消費税）300（仮払消費税）200
（未払消費税）100

◆商品売買と原価の処理

<設例>（1）期首商品100個 @¥10
（2）商品600個 @¥10を掛で購入
（3）商品500個 @¥15を掛で売上
（4）本日決算（決算整理）

1. 分記法 … 全経では基礎簿記会計の範囲

商品を仕入 → 原価を商品勘定の借方に記入する。

商品を販売 → 原価を商品勘定の貸方に記入し、
原価と売価の差額を商品販売益勘定の貸方に記入する。

（1）仕訳なし

（2）（商品） 6,000 （買掛金） 6,000

（3）（売掛金） 7,500 （商品） 5,000

（商品販売益） 2,500 ←利益確定

（4）仕訳なし

2. 売上原価対立法（販売のつど売上原価勘定に振り替える方法） … 日商では2級

商品を仕入 → 原価を商品勘定の借方に記入する。

商品を販売 → 売価を売上勘定の貸方に記入し、
原価を商品勘定から売上原価勘定に振り替える。

（1）仕訳なし

（2）（商品） 6,000 （買掛金） 6,000

（3）（売掛金） 7,500 （売上） 7,500

（売上原価） 5,000 （商品） 5,000 ←利益確定

（4）仕訳なし

3. 3分割法（3分法）

商品を仕入 → 原価を仕入勘定の借方に記入する。

商品を販売 → 売価を売上勘定の貸方に記入する。

（1）仕訳なし

（2）（仕入） 6,000 （買掛金） 6,000

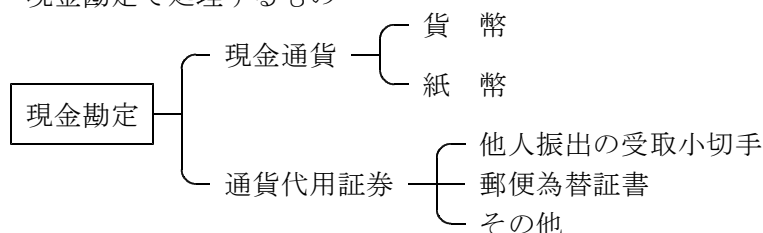
（3）（売掛金） 7,500 （売上） 7,500

（4）（仕入） 1,000 （繰越商品） 1,000

（繰越商品） 2,000 （仕入） 2,000 ←利益確定

◆現金勘定の処理

1 現金勘定で処理するもの



商品¥30,000を売上げ、代金は相手先が振り出した小切手で受け取った。

(現金) 30,000 (売上) 30,000

手数料代金として郵便為替証書¥28,000が送付されてきた。

(現金) 28,000 (受取手数料) 28,000

2 現金過不足（現金過剰または現金不足）の処理

いったん「現金過不足」とし、決算時にまとめて「雑損」または「雑益」

現金の実際有高が帳簿残高より

¥50,000不足していた（原因不明）。

(現金過不足) 50,000 (現金) 50,000

現金の実際有高が帳簿残高より

¥60,000超過していた（原因不明）。

(現金) 60,000 (現金過不足) 60,000

現金不足の原因として、水道光熱費の
支払い¥20,000の記帳漏れを発見した。

(水道光熱費) 20,000 (現金過不足) 20,000

現金過剰の原因として、売掛金の

回収¥40,000の記帳漏れを発見した。

(現金過不足) 40,000 (売掛金) 40,000

----- (決 算 処 理) -----

現金過不足の借方残高¥30,000の原因

は、なお不明なので適切に処理した。

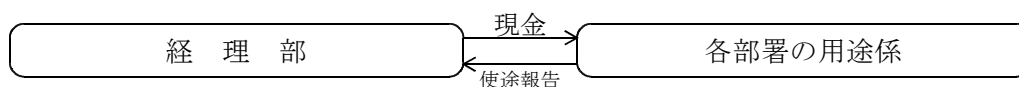
(雑 損) 30,000 (現金過不足) 30,000

現金過不足の貸方残高¥20,000の原因

は、なお不明なので適切に処理した。

(現金過不足) 20,000 (雑 益) 20,000

3 小口現金 … 日常の細かい支払いのために、各部署に預ける現金



定額資金前渡法（インプレスト・システム）を採用し、小口現金として小切手¥23,000を振り出して、用途係に手渡した。

(小口現金) 23,000 (当座預金) 23,000 → 小口現金出納帳に記帳

用途係から、支払いの報告があった。

(交 通 費) 3,000 (小口現金) 13,500

(通 信 費) 4,500

(消耗品費) 5,000

(雑 費) 1,000

まとめて、報告

用途係の支払分について、小切手を振り出して補給した。

(小口現金) 13,500 (当座預金) 13,500

小口現金
出納帳

日々の支出を
記帳

記帳方法は、帳簿の
単元で学習します。

◆商品売買と小切手

1 小切手

小 切 手	
U S O 銀行八百支店	
¥ 1, 000, 000 ※	
上記の金額をこの小切手と引替えに	
持参人にお支払い下さい	大酒市...
〇〇年××月△△日	金持輝蔵 (鑑)

他人が振出した小切手を受け取った	(現 金) × × ×	(売 上) × × ×
受け取った(他人振出の)小切手で支払った	(仕 入) × × ×	(現 金) × × ×
小切手を受取り、ただちに当座預金に預入	(当座預金) × × ×	(売 上) × × ×
小切手を振り出した	(仕 入) × × ×	(当座預金) × × ×
自分が振出した小切手を受け取った	(当座預金) × × ×	(売 上) × × ×

◆有価証券の売買

(日商では2級で扱う)

1 購入…取得原価で記帳する

手数料等は、購入代金と共に、取得原価に含める

売買目的でA社株式100株を¥10,000
で購入し、購入手数料¥500と共に、
現金で支払った。

(有価証券) 10,500 (現 金) 10,500

◆有形固定資産の売買

(売却については全経では2級で扱う)

事務用の書類棚を¥10,000で購入し、
配達料¥500 と共に、月末払いとした。

(備 品) 10,500 (未 払 金) 10,500

2 売却…代金との差額は、売却損または売却益

(1) 売却価格<帳簿価格

上記株式のうち10株を¥1,000で売却
し、代金は当座預金に振り込まれた。

(当座預金) 1,000 (有価証券) 1,050
(有価証券売却損) 50

取得原価¥10,500の事務用棚を¥10,000で
売却し、代金は他店振出の小切手で、
受け取った。

(現 金) 10,000 (備 品) 10,500
(備品売却損) 500

(2) 帳簿価格<売却価格

上記株式のうち10株を¥1,100で売却
し、代金は後日受け取ることにした。

(未 収 金) 1,100 (有価証券) 1,050
(有価証券売却益) 50

取得原価¥10,500の事務用棚を¥11,000で
売却し、現金で受け取った。

(現 金) 11,000 (備 品) 10,500
(備品売却益) 500

◆様々な債権・債務

	債 権	債 務
代金は後で（商品取引）	売掛金	買掛金
〃 （商品取引以外）	未収金	未払金
代金は先に（解約不能）	前払金	前受金
〃 （解約権留保）	支払手付金	受取手付金
他人の支払いを	立替金	預り金
従業員の支払いを	従業員立替金	従業員預り金
		所得税預り金
		社会保険料預り金
とりあえずお金を	仮払金	仮受金
金銭そのものを貸し借り（通常）	貸付金	借入金

●前払金、前受金

得意先から、商品¥10,000の注文を受け、
内金¥2,000を現金で受け取った。

（現 金） 2,000 **（前 受 金） 2,000**

商品¥10,000を売上げ、代金は先に受け
取っていた内金¥2,000を差し引き、
残高を掛けとした。

（前 受 金） 2,000（売 上） 10,000
（売 掛 金） 8,000

商品¥10,000を売上げ、代金は先に受け
取っていた内金¥2,000を差し引き、
残高を掛けとした。なお、買主負担の
運送費¥500を現金で支払った。

（前 受 金） 2,000（売 上） 10,000
（売 掛 金） 8,000
（立 替 金） 500（現 金） 500

仕入先に商品¥10,000を注文し、
内金¥2,000を現金で支払った。

（前 払 金） 2,000（現 金） 2,000

商品¥10,000を仕入れ、代金は先に支払
っていた内金¥2,000と相殺し、残高は
掛けとした。

（仕 入） 10,000 **（前 払 金） 2,000**
（買 掛 金） 8,000

商品¥10,000を仕入れ、代金は先に支払
っていた内金¥2,000と相殺し、残高は
掛けとした。なお、当店負担の運送費
¥500は売主が発送時に支払っている。

（仕 入） 10,500 **（前 払 金） 2,000**
（買 掛 金） 8,500

※前払金・前受金（いわゆる内金）の勘定に替え、
支払手付金・受取手付金の勘定を使うこともある。

契約法的には手付金と
内金は区別されます。

●預り金（所得税預り金、社会保険料預り金）の処理

従業員給料¥200,000から源泉所得税¥10,000と社会保険料¥18,000を控除した
¥172,000を現金で支払った。

（給 料） 200,000 （現 金） 172,000
（預 り 金） 28,000

先に預かった源泉所得税¥10,000を現金で納付した。

（預 り 金） 10,000 （現 金） 10,000

先に預かった社会保険料¥18,000と企業負担分¥18,000をあわせて、現金で納付した。

（預 り 金） 18,000 （現 金） 36,000
（法定福利費） 18,000

● 仮払金の支払と精算

従業員の出張に際し、旅費などの概算額¥10,000を現金で支払った。

(仮払金) 10,000 (現金) 10,000

出張中の従業員が帰社し、先に仮払いを行っていた¥10,000につき、

旅費交通費¥7,000 通信費¥2,000と報告を受け、残金は現金で受け取った。

(旅費交通費) 7,000 (仮払金) 10,000

(通信費) 2,000

(現金) 1,000

● 仮受金

得意先から、¥10,000が普通預金口座に振り込まれたが、詳細が不明である。

(普通預金) 10,000 (仮受金) 10,000

先に、得意先から普通預金に振り込まれた仮受金として処理していた¥10,000は、
売掛金の受け取り¥6,000と、来月分の内金¥4,000であることが判明した。

(仮受金) 10,000 (売掛金) 6,000

(前受金) 4,000

◆ 様々な費用・収益

	費用	収益
商品売買による	仕入	売上
売主負担の運賃	発送費	
保管料、倉庫料など	保管費	
手数料の支払・受取	支払手数料	受取手数料
土地の賃借から発生する費用・収益	支払地代	受取地代
建物の賃借から発生する費用・収益	支払家賃	受取家賃
金銭の貸借から発生する費用・収益	支払利息	受取利息
有価証券の売却で生じる損益	有価証券売却損	有価証券売却益
固定資産の売却で生じる損益	固定資産売却損	固定資産売却益
固定資産の現状維持・回復の費用	修繕費	
固定資産税、自動車税、印紙税など	租税公課	
保険料（保険の掛け金）の支払い	保険料	
従業員の勤務に対する報酬の支払い	給料	
従業員の社会保険料の会社負担分	法定福利費	
チラシ代、ポスター代など	広告宣伝費	
電車、バス、タクシー代、高速道代など	旅費交通費	
電気・ガス・水道代金	水道光熱費	
電話代金や郵便料金など	通信費	
文房具や包装紙などの購入費	消耗品費	
営業活動に直接関係ある雑多な	雑費	
営業活動に直接関係ない雑多な	雑損	雑益、雑収入

◆ 株式の発行（設立時・増資時）

● 株式発行の原則的処理（会社 445 ①）

※例外処理は 2 級

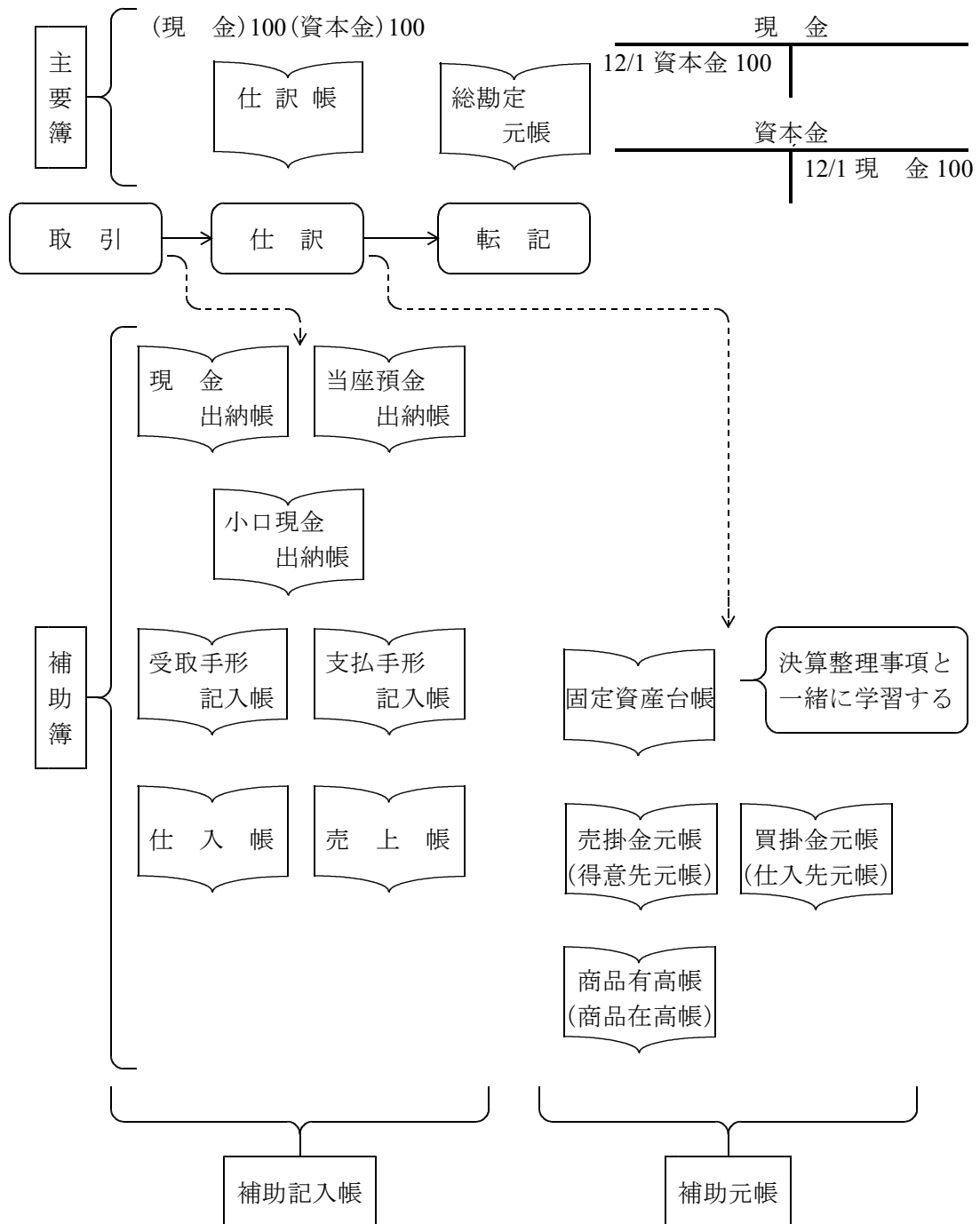
資本金の額は、原則として、株主となるものが払込または給付した財産の額とする。

1 株 ¥10,000 で株式 1,000 株を発行し、全額が当座預金に払込まれた。

(当座預金) 10,000,000 (資本金) 10,000,000

◆帳簿①

1 主要簿と補助簿



◆帳簿②

2 主要簿
(1) 仕訳帳

仕 訳 帳

7

日付	摘 要	元丁	借 方	貸 方
	前頁より繰越		36,500,000	36,500,000
6 11	(当 座 預 金)	2	700,000	
	(借 入 金)	1 5		700,000
	梅田銀行から借入れ			
〃	(仕 入) 諸 口	2 6	600,000	
	(当 座 預 金)	2		100,000
	(買 掛 金)	1 4		500,000
	A商品を¥2,000で300個仕入れ			
13	(現 金)	1	250,000	
	(売 上)	1 9		250,000
	福島商店に売上			
15	諸 口 (売 上)	1 9		400,000
	(現 金)	1	200,000	
	(売 掛 金)	4	200,000	
	福島商店に売上			

勘定科目は、
借方・貸方それぞれに寄せ、
(括弧)をつけて記入

1行1科目 原則、借方から

複数勘定科目の上には、諸口を
→諸口には括弧をつけない。
→借方諸口の場合は貸方が先

小書き(簡単な取引内容)を記入
…省略可
書き出す前には、
前の取引との間に境界線を引く

転記先の
総勘定
元帳の
ページ
数

金額は、
借方・貸方の各欄に記入

◆帳簿③

(2) 総勘定元帳（残高式）

総勘定元帳
現金

1

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
6 13	売上	7	250,000		借	250,000
	15 売上	〃	200,000		〃	450,000

当座預金

2

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
6 11	借入金	7	700,000		借	700,000
	〃 仕入	〃		100,000	〃	600,000

売掛金

4

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
6 15	売上	7	200,000		借	200,000

買掛金

1 4

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
6 11	仕入	7		500,000	貸	500,000

借入金

1 5

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
6 11	当座預金	7		700,000	貸	700,000

売上

1 9

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
6 13	現金	7		250,000	貸	250,000
	15 諸口	〃		400,000	〃	650,000

仕入

2 6

日付	摘要	仕丁	借方	貸方	借貸	残高
6 11	諸口	7	600,000		借	600,000

相手勘定科目か諸口

転記元の仕訳帳ページ数

残高の貸借

◆帳簿④

3 補助記入帳

(1) 現金出納帳、当座預金出納帳

現金出納帳

日付	摘要	収入	支出	残高
6 13	売上 福島商店	250,000		250,000
15	売上 福島商店	200,000		450,000

当座預金出納帳

日付	摘要	預入	払出	借 貸	残高
6 11	借入金 梅田銀行	700,000		借	700,000
〃	仕入 #103 Aフーズ		100,000	〃	600,000

「貸」なら当座借越

(2) 小口現金出納帳

①週末報告・週明け補給方式

9月28日 小口現金補給 ￥21,500 小切手渡し

(小口現金) 21,500 (当座預金) 21,500 ← 経理部処理
用途係記帳

小口現金出納帳

受入	令和X年	摘要	支払	内 訳	交通費	通信費	消耗品費	雑費
1,500	9 28	前週繰越						
21,500	〃	本日補給						
	〃	郵便切手	2,500			2,500		
	29	バス回数券	3,000	3,000				
	30	お茶代	1,000					1,000
	10 1	事務用文房具	5,000				5,000	
	2	テレホンカード	2,000			2,000		
	〃	合計	13,500	3,000	4,500	5,000	1,000	
	〃	次週繰越	9,500					
23,000			23,000					
9,500	10 5	前週繰越						
13,500	〃	本日補給						

10月2日 小口現金使用報告 ￥13,500

(交通費) 3,000 (小口現金) 13,500
(通信費) 4,500
(消耗品費) 5,000
(雑費) 1,000

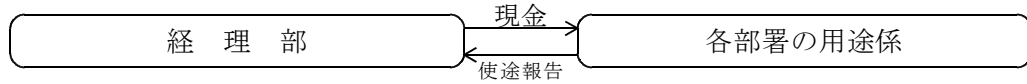
経理部処理

10月5日 小口現金補給 ￥13,500 小切手渡し

(小口現金) 13,500 (当座預金) 13,500

◆帳簿⑤

小口現金 … 日常の細かい支払いのために、各部署に預ける現金



定額資金前渡法（インプレスト・システム）を採用し、小口現金として小切手¥ 23,000を振り出して、用途係に手渡した。

（小口現金）23,000（当座預金）23,000 → 小口現金出納帳に記帳

用途係から、支払いの報告があった。

（交 通 費） 3,000（小口現金）13,500
（通 信 費） 4,500
（消耗品費） 5,000
（雑 費） 1,000

小口現金
出納帳 日々の支出を
記帳

まとめて、報告

②週末報告・補給同時方式

9月28日 小口現金補給 ¥21,500 小切手渡し

（小 口 現 金） 21,500 （当 座 預 金） 21,500 ← 経理部処理

小 口 現 金 出 納 帳 ← 用途係記帳

受 入	令和 X年	摘 要	支 払	内 訳			
				交通費	通信費	消耗品費	雑 費
23,000	9	28 前 週 繰 越					
		〃 郵便切手	2,500		2,500		
		29 バス回数券	3,000	3,000			
		30 お 茶 代	1,000				1,000
	10	1 事務用文房具	5,000			5,000	
		2 テレホンカード	2,000		2,000		
		〃 合 計	13,500	3,000	4,500	5,000	1,000
13,500		〃 本 日 補 給					
		〃 次 週 繰 越	23,000				
36,500			36,500				
23,000	10	5 前 週 繰 越					

10月2日 小口現金使用報告・同時補給 ¥13,500 小切手渡し

（交 通 費） 3,000 （当 座 預 金） 13,500
（通 信 費） 4,500
（消 耗 品 費） 5,000
（雑 費） 1,000

経理部処理

◆帳簿⑥

(4) 仕入帳、売上帳

仕 入 帳			
XX 年		摘 要	金 額
4	3	西林商店 送り状#248 掛	
		扇風機 10台 @¥15,500	155,000
	5	西林商店 返品	5,000
	18	南火商店 送り状#309 掛	
		扇風機 22台 @¥17,000	374,000
	23	南火商店 返品	
		扇風機 2台 @¥17,000	34,000
	31	当 月 総仕入高	529,000
	〃	当 月 返 品 高	39,000
	〃	当 月 純仕入高	490,000

売 上 帳			
XX 年		摘 要	金 額
4	12	北山商店 送り状#103 掛	
		扇風機 18台 @¥26,000	468,000
	15	北山商店 返品	
		扇風機 3台 @¥26,000	78,000
	19	北山商店 返品	15,000
	29	東風商店 送り状#104 掛	
		扇風機 15台 @¥28,000	420,000
	31	当 月 総売上高	888,000
	〃	当 月 返 品 高	93,000
	〃	当 月 純売上高	795,000

3 補助元帳

(1) 売掛金元帳（得意先元帳）、買掛金元帳（仕入先元帳）

売 掛 金 元 帳
北 山 商 店

日付	摘 要	借 方	貸 方	借 貸	残 高
4	12	売上 送り状#103 掛	468,000	借	468,000
	15	品違いのため返品	78,000	"	390,000
	19	外箱痛みのため返品	15,000	"	375,000
	25	約束手形で回収	200,000	"	175,000
	30	合 計	468,000	293,000	
	"	次 月 繰 越	175,000		
		468,000	468,000		
5	1	前 月 繰 越	175,000	借	175,000

東 風 商 店

日付	摘 要	借 方	貸 方	借 貸	残 高
4	29	売上 送り状#104 掛	420,000	借	420,000
	30	合 計	420,000		
	"	次 月 繰 越	420,000		
		420,000	420,000		
5	1	前 月 繰 越	420,000	借	420,000

買 掛 金 元 帳

◆帳簿⑦

西 林 商 店

日付	摘 要	借 方	貸 方	借 貸	残 高
4 3	仕入 送り状#248 掛		155,000	貸	155,000
5	色違いのため返品	5,000		〃	150,000
15	小切手#113 で支払	100,000		〃	50,000
30	合 計	105,000	155,000		
〃	次 月 繰 越	50,000			
		155,000	155,000		
5 1	前 月 繰 越	50,000		貸	50,000

南 火 商 店

日付	摘 要	借 方	貸 方	借 貸	残 高
4 18	仕入 送り状#309 掛		374,000	貸	374,000
23	品違いのため返品	34,000		〃	340,000
25	現金で支払	200,000		〃	140,000
30	合 計	234,000	374,000		
〃	次 月 繰 越	140,000			
		374,000	374,000		
5 1	前 月 繰 越	140,000		貸	140,000

(参考) 上記に対応する総勘定元帳

売 掛 金

3

日付	摘 要	仕丁	借 方	貸 方	借 貸	残 高
4 12	売 上	2	468,000		借	468,000
15	売 上	〃		78,000	〃	390,000
19	売 上	〃		15,000	〃	375,000
25	売 上	〃		200,000	〃	175,000
29	受取手形	3	420,000		〃	595,000

買 掛 金

1 3

日付	摘 要	仕丁	借 方	貸 方	借 貸	残 高
4 3	仕 入	2		155,000	貸	155,000
5	仕 入	〃	5,000		〃	150,000
15	当座預金	〃	100,000		〃	50,000
18	仕 入	〃		374,000	〃	424,000
23	仕 入	〃	34,000		〃	390,000
25	現 金	〃	200,000		〃	190,000

◆帳簿⑧

(2) 商品有高帳 (商品在高帳)

(先入先出法) 商 品 有 高 帳
(商 品 A)

XX 年	摘 要	受 入 高			払 出 高			残 高		
		数 量 台	単 価 円	金 額 円	数 量 台	単 価 円	金 額 円	数 量 台	単 価 円	金 額 円
4	1 前月繰越	100	1,200	120,000				100	1,200	120,000
	3 仕 入	100	1,500	150,000				100	1,500	150,000
	12 売 上				100	1,200	120,000			
					50	1,500	75,000	50	1,500	75,000
	18 仕 入	200	1,700	340,000				200	1,700	340,000
	29 売 上				50	1,500	75,000			
					100	1,700	170,000	100	1,700	170,000
	31 合 計	400		610,000	300		440,000			
	" 次月繰越				100	1,700	170,000			
		400		610,000	400		610,000			
5	1 前月繰越	100	1,700	170,000				100	1,700	170,000

売上原価の計算

月初商品棚卸高	¥	120,000
当月商品仕入高		490,000
合 計	¥	610,000
月末商品棚卸高		170,000
売 上 原 価		440,000

(移動平均法) 商 品 有 高 帳
(商 品 A)

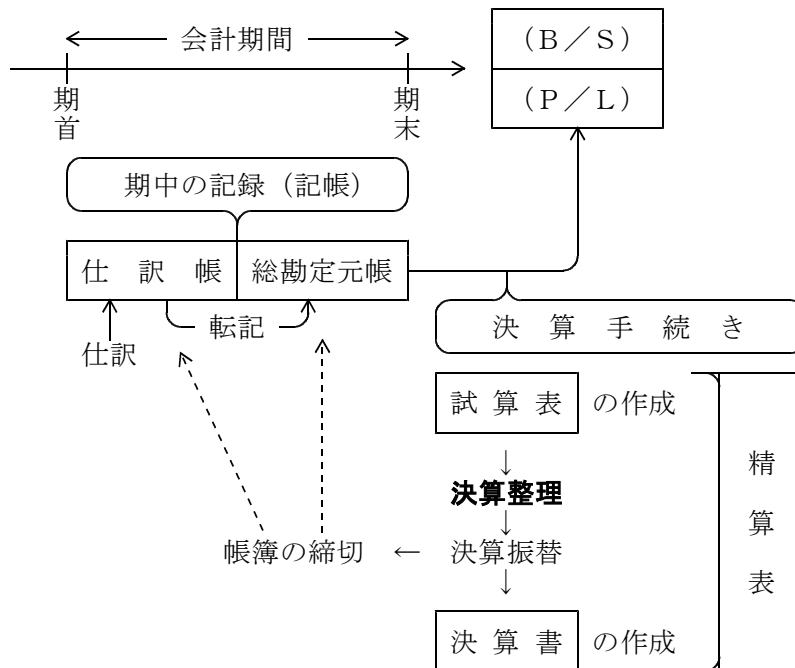
XX 年	摘 要	受 入 高			払 出 高			残 高		
		数 量 台	単 価 円	金 額 円	数 量 台	単 価 円	金 額 円	数 量 台	単 価 円	金 額 円
4	1 前月繰越	100	1,200	120,000				100	1,200	120,000
	3 仕 入	100	1,500	150,000				200	1,350	270,000
	12 売 上				150	1,350	202,500	50	1,350	67,500
	18 仕 入	200	1,700	340,000				250	1,630	407,500
	29 売 上				150	1,630	244,500	100	1,630	163,000
	31 合 計	400		610,000	300		447,000			
	" 次月繰越				100	1,630	163,000			
		400		610,000	400		610,000			
5	1 前月繰越	100	1,630	163,000				100	1,630	163,000

売上原価の計算

月初商品棚卸高	¥	120,000
当月商品仕入高		490,000
合 計	¥	610,000
月末商品棚卸高		163,000
売 上 原 価		447,000

決算手続きの概要 (1)

1 簿記一連の流れと決算



2 決算整理

決算整理	…正しく利益を計算し、正しく資産・負債・資本を把握するための修正
<全経3級における決算整理事項>	
①売上原価の計算	(仕 入) ××× (繰 越 商 品) ××× (繰 越 商 品) ○○○ (仕 入) ○○○
②貸倒引当金の計上	(貸倒引当金繰入) ××× (貸 倒 引 当 金) ×××
③減価償却	(減 価 償 却 費) ××× (備 品) ×××
④費用の繰延 費用の見越	(前 払 保 険 料) ××× (支 払 保 険 料) ××× (支 払 利 息) ××× (未 払 利 息) ×××
⑤消耗品の処理	(消 耗 品) ××× (消 耗 品 費) ×× (租 税 公 課) ×
⑥現金過不足の処理	(雑 損) ××× (現 金 過 不 足) ××× (現 金 過 不 足) ××× (雑 益) ×××

決算手続きの概要 (2)

3 8桁精算表

(1) 計算のしかた

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	×××		×××				×××	
買 掛 金		×××		×××				×××
受取利息		×××	×××			×××		
支払家賃	×××			×××	×××			
当期純利益					×××			×××
(合 計)								

(2) 記入のしかた

決算整理仕訳

(仕 入) 5,000 (繰越商品) 5,000
(繰越商品) 6,000 (仕 入) 6,000

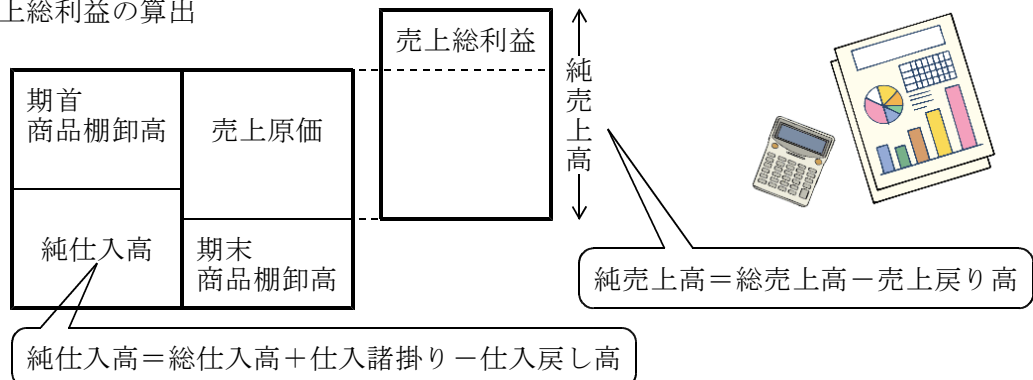
転記する

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	24,000						24,000	
繰越商品	5,000		6,000	5,000				6,000
仕 入	45,000		5,000	6,000	44,000			

商品に関する決算整理

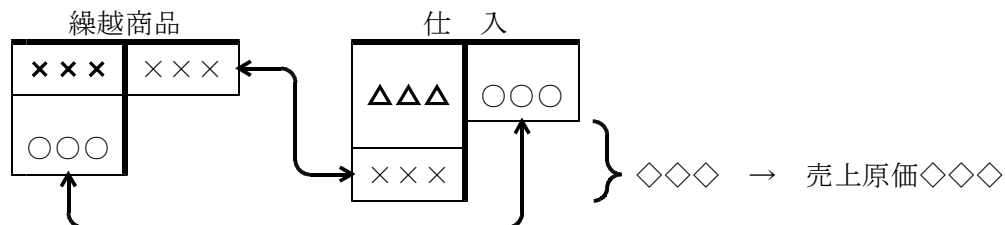
1 売上総利益の算出



2 決算整理で行う売上原価の計算（3分法の場合必要）

繰越商品残高×××、仕入残高△△△、期末商品棚卸高〇〇〇 のとき

(仕 入) ××× (繰越商品) ×××
(繰越商品) 〇〇〇 (仕 入) 〇〇〇



貸倒引当金

1 貸し倒れとは

相手方倒産のため、債権（特に売上債権：受取手形、売掛金）が回収不能になること。

（例）取引先が倒産し、売掛金が回収不能となった。

(貸 倒 損 失) 12,000 (売 掛 金) 12,000

2 貸倒引当金とは

将来の債権回収不能に備えて、あらかじめ損失額を見越し計上しておくもの

(1) 貸倒引当金の設定（差額補充法：設定額＞残高）

売掛金の残高¥500,000に対し、2%の貸倒引当金を見積もる。

なお、貸倒引当金の期末残高は¥4,000である。

(貸倒引当金繰入) 6,000 (貸 倒 引 当 金) 6,000

(2) 貸倒引当金の設定（差額補充法：設定額＜残高）

売掛金の残高¥500,000に対し、2%の貸倒引当金を見積もる。

なお、貸倒引当金の期末残高は¥13,000である。

(貸 倒 引 当 金) 3,000 (貸倒引当金戻入) 3,000

(3) 前期発生の売掛金が貸倒れた（貸倒引当金を設定していた売掛金が貸倒れた）

(貸 倒 引 当 金) 10,000 (売 掛 金) 12,000

(貸 倒 損 失) 2,000

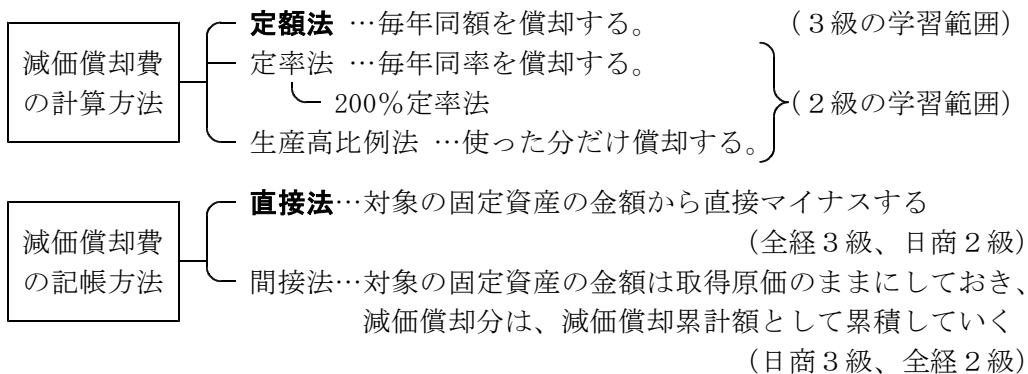
(4) 前期の貸倒れを当期に回収した

(現 金) 8,000 (償却債権取立益) 8,000

減価償却費と固定資産台帳 (1)

◆減価償却とは

有形固定資産の経年劣化（資産価値減少）を各期の費用として計上すること

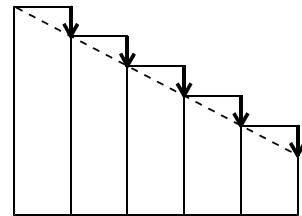


◆定額法 …毎年同額を償却する。

$$\text{減価償却費} = (\text{取得原価} - \text{残存価額}) \div \text{耐用年数}$$

(例) 取得原価 ¥500,000、残存価額10%、耐用年数5年

$$\begin{aligned} \text{減価償却費} &= (500,000 - 50,000) \div 5 \\ &= 500,000 \times (1 - 0.1) \div 5 \\ &= 500,000 \times 0.9 \div 5 = 90,000 \end{aligned}$$



◆直接法 … 対象の固定資産の金額から直接マイナスする

①減価償却費の計上

(減 価 償 却 費) 90,000 (備 品) 90,000

②固定資産の売却

- ・ 備品を売却した。(売却価格 < 売却時の帳簿価格)

(未 収 入 金) 200,000 (備 品) 230,000

(固定資産売却損) 30,000

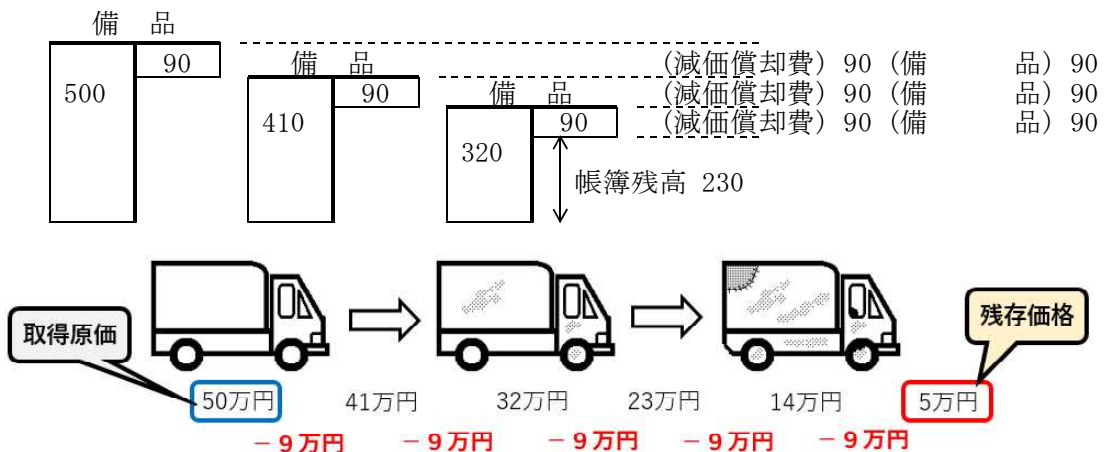
- ・ 備品を売却した。(売却価格 > 売却時の帳簿価格)

(未 収 入 金) 250,000 (備 品) 230,000

(固定資産売却益) 20,000

- ・ 備品を売却した。(売却価格 = 売却時の帳簿価格)

(未 収 入 金) 230,000 (備 品) 230,000



減価償却費と固定資産台帳（２）

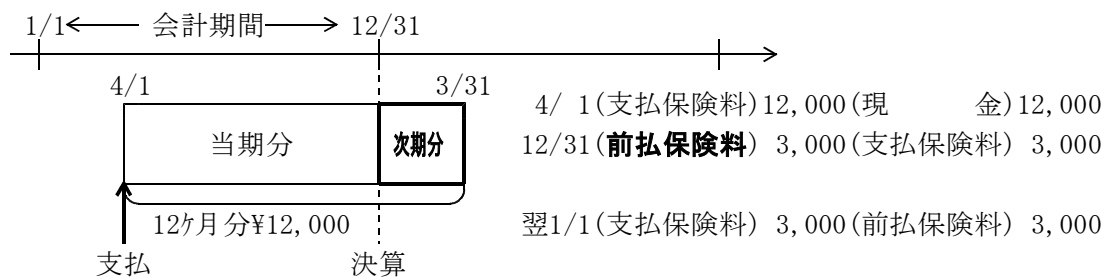
◆固定資産台帳

固定資産台帳

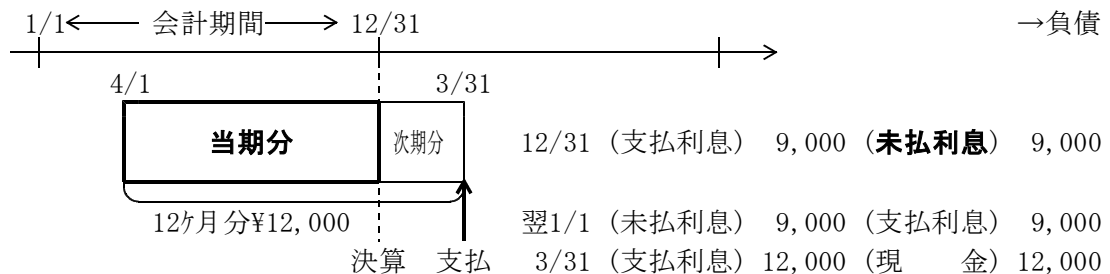
取得日	名 称	期末 数量	償却 方法	耐用 年数	取得原価	期首 帳簿価額	当期 増減	当期減価 償却費	期末 帳簿価額
25. 1. 1	備品 A	10	定額	8 年	180, 000	60, 000	0	22, 500	37, 500
27. 4. 1	備品 B	3	200定率	5 年	36, 000	4, 666	0	1, 866	2, 800
29. 4. 1	備品 C	1	200定率	8 年	80, 000	60, 000	0	15, 000	45, 000
28. 4. 1	備品 PC	10	定額	4 年	220, 000	110, 000	0	55, 000	55, 000
	小 計				516, 000	234, 666	0	94, 366	140, 300

費用の繰延と見越（前払費用と未払費用）

- 1 前払費用…先に支払った次期以降の費用（費用の繰延べ）→資産

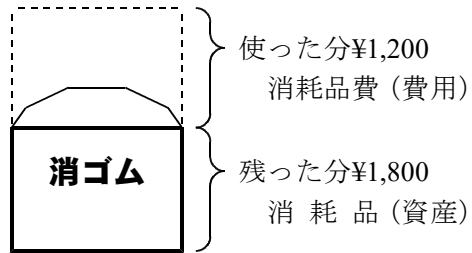


- 2 未払費用…支払が先のため、まだ計上されていない当期の費用（費用の見越し）



翌期首には、振り戻しておく（再振替）

消耗品と消耗品費



○購入時に全額消耗品とした場合

購入時(消耗品)3,000(消耗品費)3,000

決算時(消耗品費)1,200(消耗品)1,200

●購入時に全額消耗品費とした場合

購入時(消耗品費)3,000(消耗品)3,000

決算時(消耗品)1,800(消耗品費)1,800

★翌期首には振り戻しておく(再振替)。

(消耗品費)1,800(消耗品)1,800

現金過不足の決算処理

- 現金過不足(現金過剰または現金不足)の処理

期中には、いったん「現金過不足」とし、決算時にまとめて「雑損」または「雑益」

現金の実際有高が帳簿残高より

¥50,000 不足していた(原因不明)。

(現金過不足) 50,000 (現金) 50,000

現金の実際有高が帳簿残高より

¥60,000 超過していた(原因不明)。

(現金) 60,000 (現金過不足) 60,000

現金不足の原因として、水道光熱費の
支払い¥20,000の記帳漏れを発見した。

(水道光熱費) 20,000 (現金過不足) 20,000

現金過剰の原因として、売掛金の

回収¥40,000の記帳漏れを発見した。

(現金過不足) 40,000 (売掛金) 40,000

----- (決 算 処 理) -----

現金過不足の借方残高¥30,000の原因

は、なお不明なので適切に処理した。

(雑 損) 30,000 (現金過不足) 30,000

現金過不足の貸方残高¥20,000の原因

は、なお不明なので適切に処理した。

(現金過不足) 20,000 (雑 益) 20,000

決算振替と総勘定元帳の締切 (1)

1 決算振替～帳簿の締切～決算書の作成 (英米式)

- (1) 損益計算書の各勘定残高を損益勘定に振替えて集め、貸借の金額が一致した損益計算書の各勘定を締め切る。
- (2) 損益勘定の残高を繰越利益剰余金に加減し、…当期純利益（当期純損失）の計上貸借の金額が一致した損益勘定を締め切る。
- (3) 貸借対照表の各勘定残高の貸借反対側に、次期繰越として朱記し、貸借の金額が一致した貸借対照表の各勘定を締め切る。
- (4) 貸借対照表の各勘定を締め切った後に、前期繰越として開始記入をし、繰越高を集めた繰越試算表を作成する。
- (5) 損益勘定をもとに損益計算書を、繰越試算表をもとに貸借対照表を作成する。

2 決算振替仕訳

- (1) 費用勘定の残高を損益勘定へ振り替える。

(損	益)	654,000	(仕	入)	470,000	
			(給	料)	180,000	
			(交	通	費)	4,000

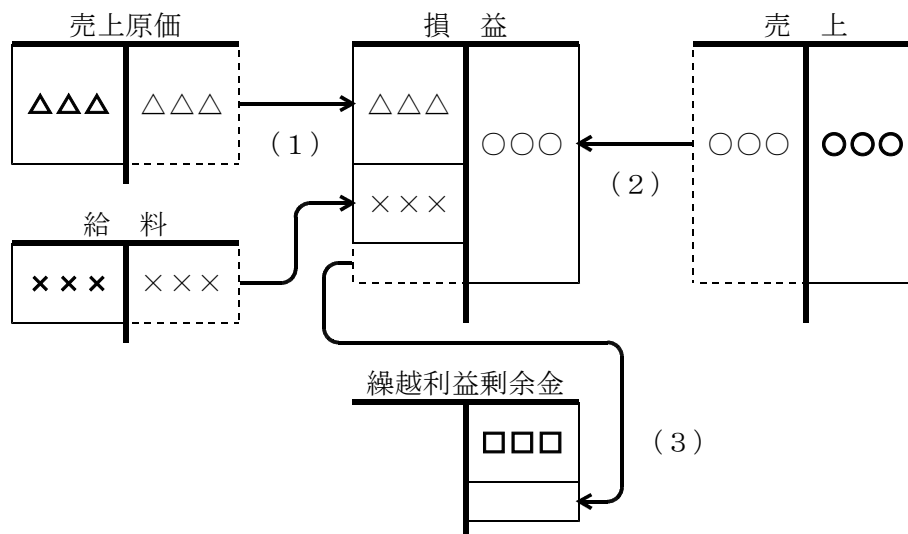
- (2) 収益勘定の残高を損益勘定へ振り替える。

(売	上)	655,000	(損	益)	670,000
(受	取	地	代)	15,000	

- (3) 損益勘定の残高を繰越利益剰余金へ振り替える。

(損	益)	16,000	(繰越利益剰余金)	16,000
----	----	--------	-----------	--------

<決算振替のしくみ>



決算振替と総勘定元帳の締切（２）

3 総勘定元帳の締切と開始記入

＜損益計算書項目の締切方法＞

決算振替で揃った貸借の合計を締切る。

損 益	
3 / 31仕入470, 000	3 / 31売上 655, 000
〃 給料180, 000	〃 受取地代 15, 000
〃 交通費 4, 000	
〃 繰越利益剰余金16, 000	
670, 000	670, 000

※あえて“諸口”は使用しない。

＜貸借対照表項目の締切方法＞

次期繰越で貸借の合計を揃えてから締切る。

繰越利益剰余金	
3 / 31次期繰越 116, 000	4 / 1前期繰越 100, 000
	3 / 31損益 16, 000
116, 000	116, 000
	4 / 1前期繰越 116, 000

※翌期の初日に前期繰越＝開始記入をする。

4 繰越試算表

繰 越 試 算 表

XX年 3月31日 (単位:円)

借 方	勘定科目	貸 方
1, 076, 000	現 金	
390, 000	当座預金	
500, 000	受取手形	
110, 000	備 品	
	支払手形	200, 000
	買 掛 金	260, 000
	借 入 金	500, 000
	資 本 金	1, 000, 000
	繰越利益剰余金	116, 000
2, 076, 000		2, 076, 000

5 損益計算書と貸借対照表

損 益 計 算 表

自XX年 4月1日至XX年 3月31日 (単位:円)

費用の部	金 額	収益の部	金 額
売上原価	470, 000	売 上 高	655, 000
給 料	180, 000	受取地代	15, 000
交 通 費	4, 000		
当期純利益	16, 000		
	670, 000		670, 000

貸 借 対 照 表

××年 3月31日 (単位:円)

資産の部	金 額	負債・資本の部	金 額
現 金	1, 076, 000	支払手形	200, 000
当座預金	390, 000	買 掛 金	260, 000
受取手形	500, 000	借 入 金	500, 000
備 品	110, 000	資 本 金	1, 000, 000
		繰越利益剰余金	116, 000
	2, 076, 000		2, 076, 000

例題

[illegible]

借入金	7/10 現金 5,000
資本金	4/1 現金 10,000
繰越利益剰余金	
受取手数料	10/20 現金 8,000

費用の勘定を損益勘定に振替える。

収益の勘定を損益勘定に振替える。

損益勘定の残高を繰越利益剰余金勘定に振替える。

- 37 -

決算振替と総勘定元帳の締切 (4)

例題解答

現金		借入金	
4/ 1 資本金 10,000 7/10 借入金 5,000 10/20 受取手数料 8,000 <u><u>23,000</u></u>	1/25 給料 5,000 3/31 次期繰越 18,000 $\swarrow$ <u><u>23,000</u></u>	3/31 次期繰越 <u><u>5,000</u></u> 7/10 現金 <u><u>5,000</u></u> 4/ 1 前期繰越 5,000	
		資本金	
		3/31 次期繰越 <u><u>10,000</u></u>	4/ 1 現金 <u><u>10,000</u></u> 4/ 1 前期繰越 10,000
		繰越利益剰余金	
		3/31 次期繰越 <u><u>3,000</u></u>	3/31 損益 <u><u>3,000</u></u> 4/ 1 前期繰越 3,000
給料		受取手数料	
1/25 現金 <u><u>5,000</u></u>	3/31 損益 <u><u>5,000</u></u>	3/31 損益 <u><u>8,000</u></u>	10/20 現金 <u><u>8,000</u></u>

〔決算振替仕訳〕

費用の勘定を損益勘定に振替える。

(損 益) 5,000 (給 料) 5,000

収益の勘定を損益勘定に振替える。

(受取手数料)	8,000	(損益)	8,000
---------	-------	------	-------

損益勘定の残高を繰越利益剰余金勘定に振替える。

(損	益)	3,000	(繰越利益剰余金)	3,000
----	----	-------	-----------	-------

表 算 試 越 繰

×2年3月31日 (単位:円)

損		益	
3/31 給料	5,000	3/31 受取手数料	8,000
〃 繰越利益剰余金	3,000		
	<u>8,000</u>		<u>8,000</u>

借 方	勘定科目	貸 方
18,000	現金	
	借入金	5,000
	資本金	10,000
	繰越利益剰余金	3,000
18,000		18,000

財務諸表作成

◆簿記3級の財務諸表

損 益 計 算 書

御堂筋商事株式会社 自×2年4月1日 至×3年3月31日 (単位：円)

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	1,536,000	売上高	2,304,000
給料	480,000	受取手数料	400,000
水道光熱費	193,000		
雑費	81,000		
雑損	1,000		
貸倒引当金繰入	1,000		
減価償却費	45,000		
当期純利益	367,000		
	2,704,000		2,704,000

貸 借 対 照 表

御堂筋商事株式会社 ×3年3月31日 (単位：円)

資産の部	金額	負債・資本の部	金額
現金	226,000	買掛金	240,000
売掛金	100,000	借入金	480,000
貸倒引当金	2,000 98,000	未払費用	8,000
商品	195,000	資本金	300,000
前払費用	6,000	繰越利益剰余金	407,000
建物	1,000,000		
減価償却累計額	90,000 910,000		
	1,435,000		1,435,000